

# アイデア社長



どの業界でも創業者は元気がいい。アイデアと事業意欲に富み、人一倍行動的。ゼロから出発して企業を立ち上げ、それなりの業績を残すのもそうした資質と努力のたまものだろう。おりをみて個性豊かな創業社長や独自のリーダーシップを発揮する2代目社長を取り上げていく。

青木電気工事(千葉県柏市)の青木仁社長。なんと人材確保で腐心し、苦肉の策としてヘリコプターを導入したというエピソードの持ち主だ。ライオンマンを目指す若者に夢と

希望を持ってもらおうと、ヘリコプターなどを開発した。リ活用や免許取得をアピール。真っ先に挑戦、みずから操縦かんを握った――。

もともと第一線現場で名電工といわれた人だが、管理手腕を買われて工事会社を設立。経営面でも創意工夫を発揮する。1つは「守備範囲」を特定したこと。

「千葉の送電設備をしっかり守って」という決意、千葉、木更津、成田など各地に拠点を設けて対応した(青木社長)

実は、これが受けた。地元業者として信頼された上、近場の勤務が多いことで社員の定着率を高めた。また工事会社として施工力の強化や技術開発にも熱心。約30人の直営電工や機械整備工を抱え、難着雪リング乗越宙乗器、軽量

「千葉の青木」。「人と装備を備えたわれわれがいてこそ千葉の電力供給は達成できる。千葉に必要不可欠な会社だ」。県内送電設備のパトロールから点検・改修、建設、塗装までこなす専門業者としての自負心と自信がそう言わしめるのか。

みずから搭乗作業にかかわった経験から電工問題でも一家言持つ。「人材あつての工事会社。有能な技術員と腕のいい電工をそろえてこそ、電力の期待に応えられる。現状が命綱一本で高所作業に携わる人にふさわしい収入かどうか、世間や電力はしっかり考えてほしい」

(古)

毎週水曜に掲載

仲間はずれを  
作らない



東葛送電(株) 橋本政二

ラインマンの皆さん、毎日の作業お疲れ様です。この仕事に就いてはや26年が過ぎました。大型工事よりも市街地の短期工事を渡り歩くことが多く、刻々と変わる現場状況に追われて、振り返る間もなく過ぎ去り「辛い」だの「辞めよう」だの思う暇もなかったような気がします。無事こなしてこられたのはひとえに良い仲間恵まれたおかげと感謝しています。

私が常々気をつけているのは「仲間はずれを作らない」ということです。一緒に仕事する仲間は多種多様。手の早い人遅い人、気が早くて先走る人、じっくり型の人等々。大勢の仲間と手を携えることで困難な工事も乗り切ってきました。

ただ往々にして「あいつはいつもそうなんだ」との思い込みで、ついつい声をかけずに流してしまうことがあります。また、それが「和のとぎれ」を生み、トラブルや怪我に繋がります。人間ですからチーム全員への目配り気配りは困難です。小グループのキャップに頼らざるを得ないのですが、キャップが自分と同じ思い込みをしていたらと、ふっと背筋が寒くなることがあります。

送電線工事に携わる大切な仲間、これからは担ってくれる若い衆、手を携えて送電線をめいっぱい背負っていきたいと思っています。